

**関西大学大学院文学研究科副専攻「EU-日本学」
「EU-日本学講義」特別講演会**

関西大学大学院文学研究科副専攻「EU-日本学」の開講科目「EU-日本学講義」では、ワイカト大学教授（本学政策創造学部招へい教授）のドヴ・ビング氏をお招きし、下記のとおり特別講演会を開催いたします。多数のご来聴をお待ちしております。

テーマ：Siegfrid Bing and L'art Nouveau:

Japan and Europe in the Late 19th Century
サミュエル・ビングとアールヌーヴォー～19世紀後半の日本とヨーロッパ～

講師：Dov Bing 氏（ワイカト大学教授、本学政策創造学部招へい教授）

使用言語：英語

日時：2013年6月11日（火）18:00～19:30

場所：尚文館 404 講義室

講演要旨

アールヌーヴォーは、20世紀初頭にヨーロッパを中心に巻き起こった新芸術運動としてよく知られていますが、もともとはパリにあったギャラリーの名前でした。持主の名は、サミュエル・ビング（Siegfrid Bing 1835-1905）、ユダヤ系のドイツ人です。企業家でもあり、日本美術品のディーラーでもありました。

サミュエル・ビングの義理の弟は、ミカエル・ベア（Michael Bear）といい、1865年ころから日本に滞在、1881年に帰国するまで横浜を中心に、アーレンス社という商社を経営していました。ベアは、滞在中、明治政府の高官の注文を受けて軍艦や機械類を調達するほか、日本の美術品を買い集めてパリのビングの店に送り届けていました。またビングと日本人妻荒井ろくとの間には照子・ベアという娘がおり、照子はその後、地質学者原田豊吉と結婚し、熊雄が生まれます。西園寺公望の私設秘書として『西園寺公と政局』で知られる「原田日記」を残した原田熊雄が、その人です。

第2次世界大戦下、ホロコーストから逃れてベア家・ビング家の人々は四散しましたが、ビング教授は、ウルグアイのモンテヴィデオのビング家保管庫、パリのベア家保管庫、そしてフランクフルトのアーレンス社の資料室を訪ね歩き、遺族を説得して、多数の資料を発見しました。その中にはこれまで知られていなかった貴重な資料が含まれています。

ビング教授の長年の努力によって、ビングコレクション、ベアコレクション、アーレンスコレクションの3つのコレクションが一堂に会することとなり、19世紀後半の日本とヨーロッパについて新しい史実を得ることができるようになりました。今回の講演では、その足跡が、スライドをまじえて紹介されます。